

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272100934		
法人名	有限会社クラウド		
事業所名	グループホームいちえ		
所在地	青森県西津軽郡深浦町大字沢辺字吉花102-27		
自己評価作成日	平成27年6月10日	評価結果市町村受理日	平成27年10月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成27年7月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

白神山地や日本海の大自然に囲まれ、静かで心の落ち着く場所となっている。  
 生きがいや楽しみ等、利用者個々の自己実現への取り組みをとっても大事にしており、居宅で生活してきた生き方や馴染みの人との繋がりを継続できるような環境づくりへの配慮も行っている。また、職員と一緒に料理や行事を多く行っており、信頼関係を築きながら安心して暮らせるように配慮している。  
 地域との関係性の重要さも考慮しており、お互いが良い関係で支え合えるように、透明感を強く持ち、地域が受け入れやすい施設となれるように努めている。  
 サービスの質の向上に向け、職員個々に年間目標を設定し、研修会にも積極的に参加している。また、都度、評価をしながら、資格取得のための助成金の活用等、職員個々のスキルアップへ力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、利用者が仲間との談笑や職員との団欒を楽しみ、四季を感じながら、家庭的な雰囲気の下で暮らすことができる環境にある。  
 管理者及び職員は利用者のことを常に一番に考え、利用者が馴染みの関係や地域との繋がりを実感して生活ができるように、催し物や利用者が行きたい場所に一緒に出かけ、利用者が楽しめるように支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が地域密着型サービスの役割を捉えて実践に繋げるように、年度計画や広報に明記したり、施設内に掲示して、目に触れ、意識を向上できるようにしている。また、会議等で理念を共有し、実践に繋げていけるように話し合いを行いながら、日々、取り組んでいる。	地域密着型サービスの役割を反映させた独自の理念を掲げており、ホーム内へ掲示したり、会議等でも周知しながら、職員間で理念を共有している。管理者及び職員は、利用者が地域住民と関わりながら生活ができるように、理念に基づいた支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町の行事や選挙への参加、地域資源を活用したり、利用者個々の繋がりを施設入所後も継続できるように、関係者との連携をとりながら交流に努めている。	地域住民とのつながりを大切に考え、日頃から地域行事に積極的に参加して交流を図っている。また、近隣住民から野菜や果物等の差し入れがある他、手踊りや本の読み聞かせ、和太鼓等の訪問もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、ホーム主催の大掛かりな地域交流イベント、地域の行事や、小・中学校のイベント、園児との交流等を通し、認知症の人への理解や支援方法を地域の人々に向けて活かせるように取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業報告や利用者やサービスの報告、話し合いを行っており、意見やアドバイスがあった場合は次の会議で実践状況を報告し、今後のサービス向上に活かせるように取り組んでいる。	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、ホームの運営状況や自己評価及び外部評価結果等を報告している。また、メンバーから出された意見や提案に対するホームの取り組みについても報告し、サービスの質の確保・向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	福祉課担当者と定期的にメール等を活用して、連絡や相談を行ったり、運営推進会議や地域連絡会議等を通して、定期的にサービスの実情について話し合いや相談を行い、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議への参加を得ている他、広報誌を配布したり、自己評価及び外部評価結果等を提出し、ホームの実態を理解していただくように働きかけている。また、行政とは協力関係を構築しており、ホームの運営やサービス利用等で困ったり、悩んだ際は直接役場へ出向いたり、メール等を活用して相談し、助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修機会を定期的につくり、全職員対象で研修を実施している。また、身体拘束をしないケアの取り組みに向け、無断外出願望のある利用者等に対しても、施錠をせず、無断外出しても見守りや付き添いを行い、また、しなくてもいいような環境づくりをして、軽減に努めている。	全職員が身体拘束は行っていけないとの認識で実践しており、マニュアルや研修で身体拘束の内容や弊害について理解を深めている。また、玄関や居室は施錠せず、今までに身体拘束を行った経緯はないものの、やむを得ず拘束を行わなければならない場合に備えて、記録に関する書式を準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法等の研修機会をつくり、全職員対象で研修を実施している。また、利用者の心身の状態を注意深く観察し、虐待が見過ごされることがないように注意を払っている。職員のストレスや精神状態、職場内での人間関係等、虐待へと繋がる不安要素への対策にも配慮している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業等の権利擁護について学ぶ機会を持ち、研修に参加している。また、その必要性を関係者と相談し、実際に活用することもある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等の関係書類の説明を利用者や家族に十分に行い、理解や納得を図っている。また、都度、不安や疑問、要望等がないか、施設側から確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や苦情処理窓口の説明を行い、意見や要望をいただくようにしている。実際に文章が無い場合でも、普段のやり取りの中から改善が必要な事は、意見書と捉えて明記し、運営推進会議や事業所内での掲示、報告を行っている。	意見箱を設置している他、契約時には苦情・相談窓口を説明し、ホーム内にも提示している。家族の面会時には意見や要望を引き出せるように働きかけている他、利用者との日常的な関わりの中で、表情や言動から利用者の意見等を汲み取るように努めている。また、意見等が出された場合は速やかに対応し、運営推進会議でも必ず報告して、メンバーから意見をいただいております。より良いホーム運営に向けて取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、定例会議を開き、各分野での意見や提案を聞く機会を設けている。また、管理者は職員個々と面談を行い、本人の要望や意見を聞く機会を設けている。話し合いの中から必要な事は反映させている。	管理者と職員は気軽に何でも話せる関係が構築されており、不安な事や分からない事はその都度相談することができる。また、ホームの運営や利用者について、職員から出された意見を検討し、できる限り反映できるように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は定期的に勤務状況の把握に努め、職員個々の努力や実績、勤務状況を把握している。それらにより、労働時間や給与水準等、職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員個々のケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保に努め、個々のスキルアップのための環境整備を進めている。資格取得に対しても助成金を活用し、職員個人の出費を軽減若しくはかからないような援助や勤務の調整をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は同業者と交流する機会を進めている。これにより、地域会議への出席や勉強会の実施、近隣施設職員の相互訪問、研修参加による幅広い福祉関係者との交流機会をつくり、サービスの質の向上へと取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の基本情報をよく理解し、今までと変わらない生活に少しでも近づけられるような配慮や、環境づくりに努めている。また、職員に徐々に不安や要望を伝えられるよう、利用者の思いを引き出せるような対応や、思いを受け入れる努力をし、信頼関係の構築に努め、利用者が安心して暮らせるように取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と利用者をどう一緒に支えていくかを話し合い、利用者の思いや家族からの要望や不安をしっかりと捉え、一緒に解決しながら、安心して利用者を預けることができるように取り組んでいる。また、常に連絡を取り、家族も、離れていても利用者の近くで見守っているように感じてもらえるように取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用前の状態から、必ずしも当施設への入所を優先することなく、現状から、利用者にとってどのサービスが適しているのか、各方面からの見解もいただきながら提示し、本人や家族と十分に話し合い、選択できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の生活で、個々の能力に応じて洗濯や掃除、調理等を職員と一緒にやり、共同生活を共にする関係を築いている。また、個々の得意な事を活かし、活躍できる場面を配慮し、介護される側とする側の区別なく、一人の人間として、当然のようにお互い支え合っている事を感じられるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者が安心できる生活を一緒に考え、支えていると家族が感じられるように、連絡ややり取りをこまめに行い、側で見守っていると感じていただけるように配慮しており、直接でなくても間接的に一緒に物事を考え、支援する機会をつくっている。また、家族の思いを引き出せるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの人や場所を捉え、施設入所後も今までのような関係を継続できるように、ドライブに出かけたり、交流ができるように配慮した行事を考案している他、施設内に馴染みの方々を招いたり、赴いたり、支援に努めている。	入所時のアセスメントや日頃の利用者との会話、家族からの聞き取り等から、利用者の馴染みの人や場所を把握し、関係が途切れないように支援している。また、馴染みの場所には希望時に出かけられるように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の性格等を十分に把握し、利用者同士の関係性を意識しながら、関係性の悪化を引き起こさないように席等の配置を考慮し、職員が中間に入り、意思疎通を図ったり、孤立やトラブルが無いように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、前利用者とその家族との関係を断ち切らず、施設探しや申し込みの代行援助、葬儀への参列等、相談や援助に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者個々の思いを引き出す努力、暮らし方の希望や意向の把握に常に努め、本人の思いが叶えられるように、施設で実践可能かどうかを十分に協議し、本人の暮らしが有意義になるように努めている。	入所時に利用者や家族から聞き取りを行っている他、必要に応じて、友人や知人等からも情報収集し、利用者の意向の把握に努めている。また、入所後は担当職員が利用者との馴染みの関係を築き、全職員で利用者一人ひとりの思いや意向を汲み取り、情報を共有しながら支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者個々の生活歴や馴染みの暮らし方、これまでのサービス利用の経過等の把握に努め、施設入所後もできるだけ今までと変わらない生活を送れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々の心身の状態、残存能力、嗜好やその人の日課をまとめて記録に残し、携わる職員全てが把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者のニーズを分析し、今、優先して取りかかせる事を利用者や家族、関わる職員で話し合い、介護計画の作成に努めている。計画で立てた目標を達成できるように、効果や方法を常に見直し、修正しながら目標達成に努めている。	アセスメントの際、利用者や家族、関係者からも意見や希望を確認しており、全職員でカンファレンスを開催し、利用者本位で個別具体化された介護計画を作成している。また、実施期間を明示して3ヶ月毎に見直しを行っている他、利用者の身体状況や、利用者・家族の希望等の変化に応じて、随時見直しを行い、現状に即した介護計画となるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや工夫等、利用者個々のアセスメント用紙を作成し、また、日々の対応を個人記録に残し、職員が情報を共有できるようにしている。また、実践や記録を参考に、計画の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	気づきや工夫等、利用者個々のアセスメント用紙を作成し、また、日々の対応を個人記録に残し、職員が情報を共有できるようにしている。また、実践や記録を参考に、計画の見直しに繋げている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、それらを活用しながら、利用者の暮らしを有意義に楽しめるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望を大切に、利用者の馴染みのかかりつけ医を継続して利用したり、必要に応じて専門医への受診を相談しながら、安心して適切な医療を受けられるように支援している。	入所前の受療状況を把握しており、利用者や家族が希望する医療機関を受診できるように支援している。また、受診結果はホーム便りの中で報告したり、面会時にも説明する等、適宜家族に報告しながら情報の共有化を図っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常での情報や気づきを看護職員に伝え、相談しながら、利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、その家族や病院関係者と情報交換や相談を行いながら、安心して治療できるように努めている。また、事前にそうした場合に備えて相談を行い、協力関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や近い将来その可能性ができた場合は、本人や家族と話し合い、事業所のできる事を説明し、相互に話し合い、方針を共有している。また、当施設で対応が可能な範囲を説明し、特養施設等への入所が必要になった時にスムーズに対応できるように、希望の特養施設の確認と申し込みを、入所時の段階から準備している。	入所時に、利用者が重度化した場合は主治医や協力医療機関と連携しながら支援していくことを、本人や家族に説明している他、看取り介護に関する指針も作成し、ホームの方針を明確にしている。また、ホームとして対応可能な事や困難な事、職員が不安に思う事等を、職員会議やミーティング等で話し合う体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員を対象に、急変や事故発生時に備えて、定期的に応急手当や初期対応の訓練や研修を行い、実践力の向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に備え、年2回の消防訓練を行ったり、定期的に災害に備えた研修を行い、全職員が災害時の対応力を向上できるように努めている。また、運営推進会議で地域へ協力を相談したり、救命講習に参加したい地域の方々にも、一緒に参加できるように、地区会長を通して働きかけている。	災害時の対応について、近隣住民や運営推進会議のメンバーに協力を働きかけている他、管理者が消防団員を務めていることから、有事の際は町の消防署と一丸となって地域の災害対応に取り組む体制を整えている。また、年2回、訓練を行っている他、年1回、業者による設備点検を行っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を意識した取り組みを行っている。	職員は利用者の言動を否定したり、拒否することなく、利用者の羞恥心に配慮しながら、声がけや介助を行うように努めている。また、利用者への声がけや対応で気になる事は、その都度、職員同士で注意し合ったり、確認や改善に向けた話し合いを行い、より良いサービス提供に向けて取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望を表せるように、場所や人を組み合わせる等して、話しやすい環境づくりに努めている。また、本人の意思で物事を決め、行うことができるような声がけや方法を提示しながら、自己決定ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々のペースに合わせた生活が送れるように、本人の思いや状態を把握し、相談しながら時間帯をずらしたり、個別の時間をつくる等して、希望に沿えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者個々の身だしなみ等を把握し、本人の希望や要望を取り入れながら、衣服や整容を進めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個々の残存能力を活かし、調理や下拵え、盛り付け、配膳、後片付けを一緒に行うことができるように工夫し、実践している。また、好みの食材や味付けを利用者と相談しながら、食事が楽しめるようにメニューに取り入れ、行っている。	利用者のできる範囲で、食事の準備や後片付け等を職員と一緒にしている他、職員は利用者と一緒に食事を摂り、会話を楽しみながら、家庭的な雰囲気の下で食事ができるように支援している。また、利用者一人ひとりの嗜好や食事形態等も把握されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の体調面や栄養状態、習慣の把握に努め、一人ひとりの食事量、水分量を確保できるように、毎日の記録をとりながら行っている。また、栄養面で不足があった場合は、主治医と相談しながら栄養補助食を取り入れ、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者個々の能力に応じた口腔ケアを取り入れ、口の中の汚れや臭いの予防に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	おむつの使用を減らすように、排泄パターンや習慣を把握し、トイレでの排泄を目指しながら、排泄の自立に向けた支援に努めている。	排泄状況を記録し、パターンを把握することで、排泄の自立に向けた適切な支援が行われている。また、利用者の羞恥心やプライバシーには十分に配慮して、声がけや誘導、介助を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解できるように研修等の勉強会を行い、下剤ばかりに頼らなくてもいいように、利用者個々の食事形態や、腸の改善となる飲食物の取り入れ等を行いながら、予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	利用者個々の希望に合わせ、曜日や時間帯を固定せず、本人に伺いながら、本人のタイミングに合わせて、一人ひとりが入浴を楽しめ、リラックスできるような支援に努めている。	基本的に週2回の入浴日を設けているものの、曜日や時間帯は固定せず、利用者の希望に応じて、毎日でも入浴できる体制を整えている。また、利用者一人ひとりの入浴習慣や希望、体調や羞恥心に配慮しながら、個々に合わせた入浴となるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々の生活習慣やその時々体調に応じて、自ら休息をとったり、気軽に休息できるような声がけに配慮し、安心して休んでいただけるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の現病歴を捉え、薬の目的や副作用、用法や用量について職員間での申し送りや、処方せん、個人記録の確認を常に共有し、症状の変化や対応方法の理解に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の生活歴や楽しみ、嗜好品を理解し、本人と普段の生活に楽しみを取り入れるように話し合い、外出や外食、趣味活動を個別につくり、実践している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者個々の希望を引き出し、馴染みの場所や普段行けない場所への外出ができるように、行事や予定を立てて実践している。また、家族等の協力を得ながら、本人が気軽にかけられるように努めている。	近隣への散歩や買い物等、日頃から外に出る機会を設けている他、弘前桜祭りや鱒ヶ沢のワサオ見物、男鹿水族館等、様々な場所への外出行事を企画し、利用者の気分転換を図っている。また、外出先にはできる限り利用者の希望を取り入れている他、必要に応じて、家族にも参加・協力を働きかけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人のお金を本人が持つことの大切さを理解しており、利用者の能力に応じて、本人や家族と話し合い、お金を所持したり、使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者や家族、友人等の関わりが、今までと変わりなく継続できるように、本人の要望に合わせ、電話や手紙のやり取りが本人のペースで行うことができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や好みの飾り付け、季節を感じられる装飾を取り入れ、生活感を出し、居心地良く過ごせるように工夫している。また、利用者個々に気になる色や、光へのこだわりを持つ方にも、不快や混乱を招かないように、カーテンの設置や目につかないような配慮を行っている。	季節の花を飾ったり、季節感のある装飾を施し、利用者が季節を感じるできるように工夫している。また、職員の話し方は穏やかで、テレビや音楽等の音量も適度なものとなっている他、ホーム内は十分な明るさがあり、利用者が心地よく過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者一人ひとりが気楽に過ごせる居場所や、気の合った利用者同士が思い思いに過ごせるような居場所への配慮に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室は、今まで生活してきた普段使い慣れた物や好みの物を持ち込み、施設入所後も以前と変わらない生活に近づけられるように、本人や家族と相談し、安心して暮らせるように行っている。	入所時に、馴染みの物を持ち込む必要性について説明し、利用者が以前から愛用していた物が持ち込まれている。また、担当職員と一緒に、利用者が生活しやすい居室づくりが行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食事やトイレ、洗濯、入浴、掃除等、一人で行える事への環境づくりや工夫をし、自立した生活を送れるように努めている。		